



## ビッグディールからの脱却の試み —窮途末路の図書館の明日は

抜粋版

物質・材料研究機構 科学情報室長 谷藤 幹子

平成24年2月10日(金)第4回 SPARC Japan セミナー2011@富山大学 黒田講堂



http://www.nims.go.jp

## ◎ 目次

1. NIMS
2. NIMS専門図書館
3. 研究独法図書館コンソーシアムJNLC.JP
4. 日本学会会議
5. 第四期科学技術基本計画
6. 窮途末路の実証
7. 窮途末路のいま
8. 窮途末路の挑戦
9. 学術コミュニケーションの将来

http://www.nims.go.jp



## ◎ 情報出版のあゆみ

リポジトリから  
ライブラリを作る



http://www.nims.go.jp

http://www.nims.go.jp

Researcher Page  
Todoroki, Shin-ichi  
NIMS Researcher

元素戦略ライブラリー  
eSCIDOC



リポジトリから  
アウトリーチする

ResearcherID  
Yusaku, Gerai

高野 弘尚 (タカノ ヒロシヒコ)  
NIMS Researchers Database SAMURAI



リポジトリから  
人を取り出す

オープンアクセス  
ジャーナルから  
日本語化、紙化

Science and Technology of Advanced Materials

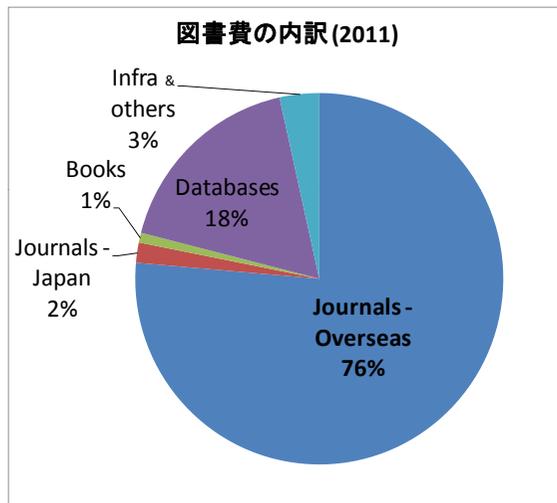
## ◎ NIMS専門図書館

- 年間予算 1.8億円
  - 書籍約23,000冊(Eブック含む)
  - オンラインジャーナル約700タイトル
  - 製本雑誌約400タイトル
  - データベース13件 セルフ貸し出し・返却
- 3地区、職員 8名(うち図書専任3名)
  - 職員規模は約1500人、約20%が外国人
  - 来館者数は一日に述べ5~10名程度、図書設備は巡回制
- セルフが基本
  - IDカードによる入退室認証とウェブカメラ監視の導入により24時間の設備利用
  - セルフ貸し出し・返却



## ◎ NIMS専門図書館

—されど、無い袖は振れぬ



http://www.nims.go.jp

## ◎ NIMS専門図書館

—されど、無い袖は振れぬ

### ● オンライン版への完全移行

- 紙版しかないジャーナルは中止
- 紙版からオンライン版移行に際して20%以上の値幅がある雑誌は中止
- 学会の会誌は中止
- 無料期間を設定している学会誌は中止

### ● 新規購読雑誌の根拠明示化

- “インパクトファクタが高い”だけでは不十分
- 研究者自身が想定読者規模を募る
- 読者層が偏っている領域は、領域研究ユニットからも支出依頼

### ● 寄贈制度

- 書籍も雑誌も皆で共通化できる図書は寄贈募る

http://www.nims.go.jp

## ◎ 研究独法図書館コンソーシアム

—JNL.C.JP

### ● 2007年設立

- 電子ジャーナルライセンス購入
- 契約・調達・会計監査情報
- メンバ共有サイト JNL.C.JP

### ● 文部科学省、経済産業省、環境庁、農水省

- 物質・材料研究機構、167 億、873 人
- 防災科学技術研究所、83 億、196 人
- 放射線医学総合研究所、117 億、511 人
- 理化学研究所、951 億、3,107 人
- 海洋研究開発機構、402 億、925 人
- 日本原子力研究開発機構、1848 億、4,683 人
- ほか、計14機関

http://www.nims.go.jp

## ◎ 研究独法図書館コンソーシアム

—JNL.C.JP

	大学図書館 University Libraries			研究所図書館 Natl Res Inst Libraries
	国立大学 National Univ. (91)	公立大学 Public Univ. (79)	私立大学 Private Univ. (520)	国立研究所 Gov. Res. Inst. (9/104)
Association	Japan Association of National University Libraries	Council of Public University Libraries	Japan Association of Private University Libraries	Japan National Research Institutes Library Consortium
Established	1967	1955	1938	2008
E-Journal Consortia	2000		2003	2008
- Consortia	JANJUL		PULC	JNLC
- Members	91		374	16
- Publishers	24	55	318	4
Collaboration	Japanese Coordinating Committee for University Libraries			- Collaboration among research institutes funded by the Japanese government
Activities	- 1982 launched - Collaboration and coordination of common matters.			
	- Information exchanges			

Source: Makoto Nakamoto, Administrative Director, Waseda University, 2010 Nov

Source: JNL.C.JP

http://www.nims.go.jp

## ◎ 日本学術会議



学術誌は、堅実な議論の場を形成し、永久に保存可能な文書としての体裁をとりつつ意見交換を行うことで、議論をより緻密に展開していくことができる場となっている。ピア・レビューによる査読制度は、論文の客観的完成度を高めるという重要な役割を担い、独善的な議論を醸して、より深い考察と高い完成度をむたす働きを担う。それと同時に、論文を題材として通信や書評等でも議論が繰り広げられ、また時代を先取りした論文の刺激を受けて他の研究活動や論理形成が啓発されることもしばしば見られる。これらの事象は、学術活動というものが単に一人一人の学究が個別に行っ

と言わざるを得ない。他方、この学術誌による情報流通は海外の学術誌商業出版社へ過度に依存しなければならぬ状況にあり、学術誌へのアクセスおよび学術誌による発信の両面において明らかに機能不全に陥っている。例えば、長年に亘る学術誌の恒常的な価格上昇により、学術誌に対するアクセスに不平等が生じている。また、わが

## ◎ 第四期科学技術基本計画

### (3) 研究情報基盤の整備

研究情報基盤は、我が国の研究開発活動を支える基盤的情報インフラであり、これまでも研究情報ネットワークの整備や運用、研究成果の保存、発信など着実な推進が図られてきた。一方、財政問題や事務体制、技術的問題により、個々の機関では研究情報基盤の整備が難しくなりつつある。これらを踏まえ、国として、研究成果の情報発信と流通体制の一層の充実に向けて、研究情報基盤の強化に向けた取組を推進する。

#### <推進方策>

- ・ 国は、大学や公的研究機関における機関リポジトリ<sup>3</sup>の構築を推進し、論文、観測、実験データ等の教育研究成果の電子化による体系的収集、保存やオープンアクセスを促進する。また、学協会が刊行する論文誌の電子化、国立国会図書館や大学図書館が保有する人文社会科学も含めた文献、資料の電子化及びオープンアクセスを推進する。
- ・ 国は、デジタル情報資源のネットワーク化、データの標準化、コンテンツの所在を示す基本的な情報整備、さらには情報を関連付ける機能の強化を進め、領域横断的な統合検索、構造化、知識抽出の自動化を推進する。また、研究情報全体を統合して検索、抽出することが可能な「知識インフラ」としてのシステムを構築し、展開する。
- ・ 国は、大学や公的研究機関が、電子ジャーナルの効率的、安定的な購読が可能となるよう、有効な方策を検討することを期待する。また、国はこれらの取組を支援する。

## ◎ 窮途末路の挑戦

### －受益者負担の考え方

#### ● アーカイブ(過去論文)よりカレント(新着論文)

- 先端研究はカレント
- 情報確認にアーカイブ

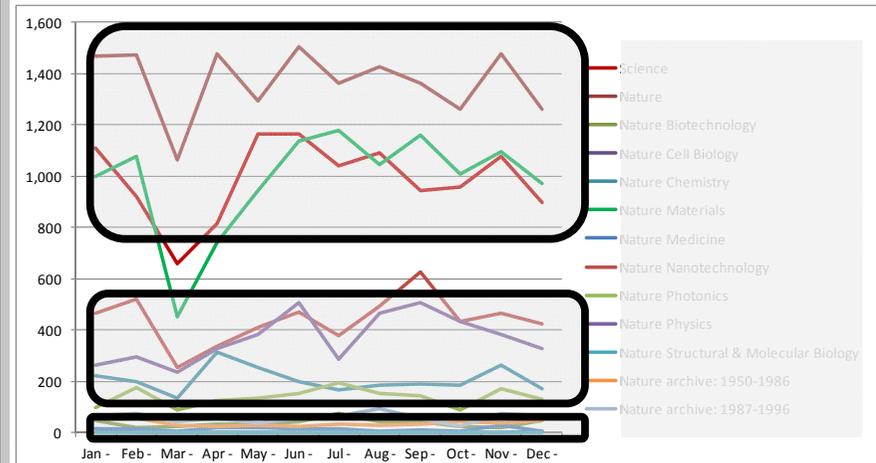
#### ● 研究情報基盤を‘分担する’

1. 研究ユニット単位で年間徴収案
2. 研究者個人単位で論文単位購入
3. 研究所全体の共通部分(アーカイブ、データベース、インフラなど)

1. どの雑誌が今の研究に必要なのかを考える  
2. 研究にコスト意識も必要

## ◎ 窮途末路の挑戦

### －受益者負担の根拠



## ◎ 学術コミュニケーションの将来

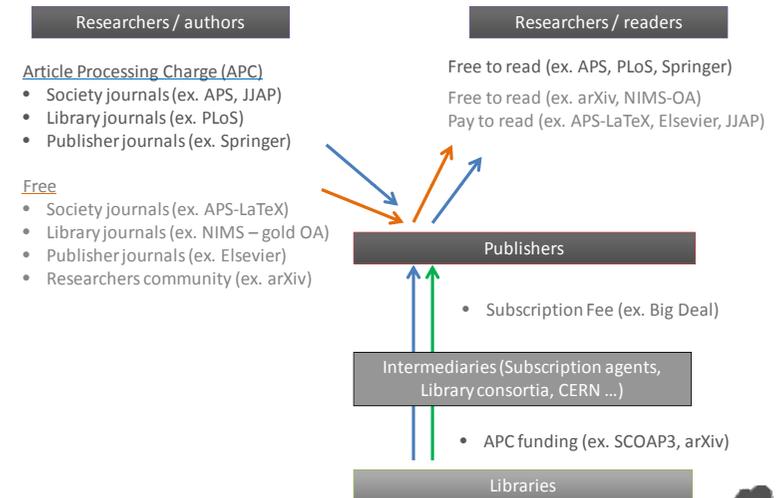
ービックディール脱却なるか

- 普遍的なこと
  - 学術誌はなくなる(ボイコットしても問題は解決しない)
  - 学術誌は研究と相互作用しながら価値を持つもの(形状や様式、分野、査読コミュニティ、人類にとっての科学)
- いかにも起こりそうにないこと
  - 論文著者のセルフアーカイブ(機関リポジトリ)による脱ビックディールの将来
  - 世界の学術誌出版ビジネスが疲弊して淘汰される将来



## ◎ 学術コミュニケーションの将来

ー普遍性とOAという相互作用



## ◎ 学術コミュニケーションの将来

ービックディール(中毒)からのリハビリテーション

- 研究者に提案
  - 論文単位の選択肢(プリペイド、レンタルやPPV)
  - 外部研究資金(テーマと期間)に必要な雑誌個人・グループ購読
- 出版社に提案
  - カスタマイズパッケージ
  - 個人/グループ購読への柔軟性ある価格設定
- 図書館でできそうなこと
  - 購読モデルの最適化
  - 個人/グループ/機関購読一出版社の取り次ぎ

